

# 「自己」で始まる四字動詞の分析

野 島 啓 一

Abstract:

In this paper, Japanese-language four-Chinese-character verb expressions are analyzed with strong focus on items comprising “自己 (=self)+stem” forms. The productivity of these word formations indicate that “自己 (=self)” accounts for the verb form’s nounness irrespective of its coreferentiality with either the subject NP or with the object NP. It is claimed that a lexical-based explanation accounts for the behavior of those verb expressions better than the argument-verb approach.

キーワード：『「自己」+漢語語幹』動詞、四字動詞、生産性、名詞機能の「自己」

この研究では「自己分析する」のように「自己」で始まる四字動詞を分析対象とする。「自己」とその次にくる要素との意味的な関係に着目し、この四字動詞を句レベルの構成単位とするか語レベルの構成単位とするかを用例とともに検討する。次に、「する」を外した四字名詞との関連も含めてその文法的機能を検討する。結論として、①「自己」を含む四字動詞は「自己」を独立性の高い名詞とする複合動詞であると解釈でき、②前半要素の「自己」は後半要素の「動詞」部分に対して目的語の機能をもち、③「自己」の持つ照応的な意味機能は主語に対して適用され、④「自己」の文法的機能は、動詞句レベルでの構成単位を利用した説明よりも、語彙項目レベルでの情報の記載による説明の方が四字動詞の種々の用法を説明できることを示す。

英語のselfを含む名詞と動詞の特徴を概略する。

- 1 . He killed himself.
- 2 . They killed themselves.
- 3 . The committee is so disorganized it will probably self-destruct before it can accomplish anything. ( Random House dictionary )
- 4 . I killed him in self-defence.( Random House dictionary )

5 . He self-insured the property.

Selfを名詞と考えた場合、例1、例2が示す通り代名詞の範疇では「人称」「数」に関して統語的な反映として活用することである。<sup>i</sup>一方、selfを含む動詞の場合、例3、例4、例5が示すように、「人称」「数」に関して統語的な反映はない。しかも、selfは主語の機能をもつ名詞句と照応関係がないのみならず、それを含む表現単位ではそのheadに対しては目的語的な機能をもっている。例えば、例3でself-destructではheadのdestructに対してargumentの役割をもち全体でselfを目的語とする動詞句の単位であると解釈可能である。語用論的な立場からこのselfは主語の名詞と照応関係にあると解釈されるが、文法的にはその照応関係を保証する証拠は存在しない。更に、辞書類等で実際の例文を探しても少ない。逆にいえば、selfを含む代名詞では統語的な活用があるものの数的に限られているし、名詞の場合では数的には多いものの、それを動詞的に用いる例は一見しただけでも少ない。例えば、「self-censorship」は名詞としてあるが、「self-censor」の形で動詞的に用いることはない。名詞形はあるが相関する動詞形は極端に少ないことは辞書類を一見しても明瞭である。ここでは考察しないが、分析の方向性として名詞の場合、selfは複合名詞の第一要素の役割と同じ可能性がある。<sup>ii</sup>一方、動詞の場合、selfはheadが動詞に対応すると考えてその目的語の役割を果たし、それ故に全体で動詞句の役割を果たしていると想定できる。<sup>iii</sup>

日本語でselfに相当する語として「自己」を含む語を対象とする。具体的には、「自己検閲」、「自己主張」等である。概観的な特徴として「自己」を含む表現形は動詞としても名詞としても使われる。「自己検閲」という四字の漢語からなる名詞としても、「自己検閲する」という動詞としても可能である。更に、動詞の形から名刺の形が派生するという場合よりも名詞の形から動詞の機能を派生させる傾向が強いことである。これは、「自己」を含む名詞では「自己」はそのheadの名詞に対して単に語幹の役割を果たすという条件だけを満たして形成されており、動詞を派生させることは名詞表現の後半要素を動詞に解釈して、その前半要素を目的語と解釈する四字動詞の形成を促進させていると解釈できる。<sup>iv</sup>更に、四字動詞の用例が多いことは、前半要素の「自己」は独立性の高い名詞として後半要素を動詞形成機能の単位として普通の四字動詞を形成している証拠にもなる。<sup>v</sup>以上の主張点を具体例的に検討するために、まず、「自己」を含む動詞が元来、単独で目的語を必要とする他動詞の場合から考える。採集したデータを一覧の形で示す。<sup>vi</sup>、<sup>vii</sup>

他動詞 目的語の中身

19 自己反省 ...と自己反省している。

日本人 グレゴリー・クラーク サイマル出版会

21 自己描写 日本人が自己描写する言葉を...

「自己」で始まる四字動詞の分析

- 日本人 グレゴリー・クラーク サイマル出版会
- 38 自己評価 「自分は決して満足を知らない」人間であると  
自己評価していたアーノルドは、...  
アメリカの日本空襲にモラルはあったか ロナルド・シェイファー 草思社
- 49 自己検閲 自己検閲してみるべきである。  
アメリカの日本空襲にモラルはあったか ロナルド・シェイファー 草思社
- 53 自己紹介 私は自己紹介した。 日米合同捜査 ジミー佐古田 講談社
- 60 自己主張 日本が自己主張すればするほど、...  
日本人 グレゴリー・クラーク サイマル出版会
- 95 自己検閲 “自分の疑問を自己検閲し、...”  
アメリカの日本空襲にモラルはあったか ロナルド・シェイファー 草思社
- 179 自己主張 あまり強く自己主張せず、...  
インターネットの五年後を読む 西垣通 カップパックス
- 232 自己主張 自己主張したり、... ニューヨーク日本人教育事情 岡田光世 岩波新書
- 305 自己投影 不幸な女性に自己投影するくらい寛容な行為はない。  
哀しい目つきの漂流者 工藤美代子 集英社
- 317 自己規定 、最も伝統的と自己規定したエッセネ派の考え方が、...  
「空気」の研究 山本七平 文芸春秋
- 320 自己改廃 、いとも簡単に“自己改廃”できるのであろう。  
「空気」の研究 山本七平 文芸春秋
- 427 自己刺激 自分の「勉強中枢」を自己刺激すると...  
心と脳の科学 芋坂直行 岩波書店
- 428 自己認識 わたしたちが自分自身を自己認識するために...  
心と脳の科学 芋坂直行 岩波書店
- 499 自己批判 非人間性・反文化性を深く恥じて自己批判し...  
比較文化キーワード 竹内実編 サイマル出版会
- 554 自己管理 社会生活の細部に渡るまで自己管理しなければならなかった段階から、...  
異文化コミュニケーション 池田理知子 有斐閣アルマ
- 582 自己修復 生命体は自己補給し、自己修復する体系であり、...  
言語を生み出す本能(下) スティーブン・ピンカー NHK
- 583 自己補給 生命体は自己補給し、自己修復する体系であり、...  
言語を生み出す本能(下) スティーブン・ピンカー NHK

- 687 自己批判 非人間性・反文化性を深く恥じて自己批判し...  
比較文化キーワード 竹内実編 サイマル出版会
- 742 自己管理 社会生活の細部に渡るまで自己管理しなければならなかった段階から、...  
異文化コミュニケーション 池田理知子 有斐閣アルマ
- 1092 自己反省 自己反省するかわりに... アメリカ人と日本人 尾崎茂雄 講談社新書
- 1706 自己批判 彼らは自己批判するのだった。  
アメリカ強制収容所 山岡浩二訳 政治広報センター
- 1770 自己表現 出版を通じて自己表現しようという欲求のあらわれである。  
日本のマス・コミュニケーション 山本明 NHK
- 1853 自己吟味 自己吟味 (reflection)しやすいうように  
新・コンピューターと教育 佐伯あきら 岩波新書
- 1935 自己負担 患者が全額を自己負担しようとするれば、...  
故障した脳 ナンシー・アンドリアセン サイマル出版会
- 1933 自己主張 強く自己主張することができるほど... 翻訳の技術 中村保男 中公新書
- 2027 自己評定 ...、イメージ能力を高く自己評定したのである。  
ヒューマンメモリ V.H.グレッグ サイエンス社
- 2039 自己規制 ...、そのように自己規制したといえる。  
人工知能と人間 長尾真 岩波新書
- 2046 自己分析 ...と自己分析するが、... アジア系アメリカ人 村上由美子 中公新書
- 2047 自己否定 これはアジア系らしさを自己否定した恥ずべき行為なのか、...  
アジア系アメリカ人 村上由美子 中公新書
- 2053 自己分析 ...、と自己分析したのは、...  
アジア系アメリカ人 村上由美子 中公新書
- 2058 自己表現 ...子供は英語で自己表現できないフラストレーションもある。  
アジア系アメリカ人 村上由美子 中公新書
- 2090 自己表現 理性的な説得で自己表現する人と、...  
何がアメリカを衰退させたか。 ジョン・シルバー イーストプレス
- 2103 自己限定 信号の研究に自己限定するところからはじめたが、...  
20世紀言語学入門 加賀野井秀一 講談社現代新書
- 2177 自己主張 独自の文化が自己主張しはじめる。  
比較文化キーワード3 竹内実編 サイマル出版会
- 2184 自己紹介 「私がウエストモerland将軍です」と自己紹介し、...

「自己」で始まる四字動詞の分析

ベスト&ブライテスト D・ハルバースタム サイマル出版会

- 2262 自己弁護 「日本人論者」でないと自己弁護しているのが実情である。  
日本文化は異質か 浜口恵俊 NHK出版
- 3414 自己弁護 自己弁護して、  
ボスのなかのボス 大貫? 扶桑社
- 3417 自己紹介 自己紹介した後  
日本の陰謀 ドウス昌代 文芸春秋
- 3567 自己紹介 自己紹介し、  
非言語コミュニケーション 石丸正 新潮社
- 3576 自己表現 自己表現するようなこと  
日本経済新聞 24面
- 3658 自己点検 「自己点検」するように指示した。  
毎日新聞 1面
- 3728 自己負担 自己負担する会食も  
日本経済 39面
- 3758 自己弁護 自己弁護したのである。  
誤解される日本人 グレゴリー・クラーク 講談社
- 3854 自己評価 自己評価するという、苦しい体験に追い込まれた。  
日系二世に生まれて ダニエル・沖本 サイマル出版会
- 3855 自己分析 自己分析していく過程で、  
日系二世に生まれて ダニエル・沖本 サイマル出版会
- 3862 自己主張 自己主張しないという固定観念が災いして、  
日系アメリカ女性 メイ・T・ナカノ サイマル出版会
- 4065 自己主張 常に自己主張しなければならない。  
ハリウッドの日本人 垣井道弘 文芸春秋
- 4077 自己分析 癪性持ちだから、と自己分析する道子さんは、...  
ロサンゼルス日本人 本多靖春 学研
- 4175 自己主張 日本が自己主張するならね。  
日本は世界を知っているか 長田庄一 サイマル出版会
- 7873 自己喪失 自己喪失しているような人には、...  
続アメリカインディアンの教え 加藤諦三 ニッポン放送出版
- 7898 自己破壊 、カレッジの卒業生のなかに自己破壊する者がいることだ。  
何がアメリカを衰退させたか。 ジョン・シルバー イースト・プレス
- 7910 自己抑制 、これを自己抑制するという意味で...  
意識とは何か 芋坂直行 岩波書店
- 7911 自己制御 、これは意識がある制約条件下で自分自身を自己制御していることに他ならない。  
意識とは何か 芋坂直行 岩波書店
- 7933 自己規制 いわば、訓練され自己規制された想像力と創造性という、...

- ホノルルからの手紙 八口ラン芙美子 中公新書
- 7953 自己観察 自分自身で自己観察する方法もかんがえられるが、...  
認知科学 大島尚編 新曜社
- 8016 自己組織化 内的整合性をもつように自己組織化される  
意識とは何か 芋阪直行 岩波書店
- 8036 自己紹介 、自己紹介したという。  
マンガニッポン論 フレデリック・ショット マール社
- 8100 自己批判 ...」書評として自己批判している。  
マンガニッポン論 フレデリック・ショット マール社
- 8461 自己破壊 、カレッジの卒業生のなかに自己破壊する者がいることだ。  
翻訳と批評 別宮貞徳 講談社文庫
- 9013 自己訓練 、その要求に応えられるよう、自己訓練しておかなければならない。  
何がアメリカを衰退させたか。 ジョン・シルバー イースト・プレス
- 9064 自己確立 異性にふれて自己確立していく青年を象徴する」  
日本語と日本語教育 3巻 杉藤美代子 明治書院
- 9104 自己確定 劣位の集団に対する優位を言葉の違いによって自己確定する、  
メタファーの記号論 菅野盾樹 頸草書房
- 9120 自己紹介 「...破産者の息子だ」とだけ自己紹介したのももいた。  
日本語と日本語教育13 明治書院
- 9213 自己規制 反対意見の持ち主も自己規制し...  
緊急時の情報処理 池田謙一 東大出版会
- 9236 自己選択 宇宙進化の中で自己選択された特定の環境にしか現れない以上、...  
論理学入門
- 9237 自己選択 内省的な自己意識のみが「私」を自己選択するのである。 論理学入門
- 9238 自己回答 おのずから自己回答されるのである。 論理学入門
- 具体例を取り上げて検討する。採集順番号の53で四字動詞のheadである「紹介」は動詞形「紹介する」では目的語の存在を必要とする。「自己紹介する」ではこの構成単位の枠内では、「自己」は目的語の機能をもっている。更に、この「自己」は主の「私」を先行詞として意味的に照応する機能をもち、「自分のこと」という意味内容を表していると考えられる。しかし、この四字動詞自体は自動詞的に用いられている。<sup>viii</sup>
- 次に、採集番号554を検討する。この「自己管理する」では「自己」は任意の「人」自身を指し、偶々主語にくる対象と照応関係をつくる。その意味で採集番号53の「自己」が「自分の

## 「自己」で始まる四字動詞の分析

こと」を意味するのとは違っている。更に、採集番号1935の「自己負担する」の場合、「自己」は「自分の(金額分)を」とも「自ら」ともあるいはその両方ともとれる可能性がある。これらの言語事実はこの型の四字動詞を動詞とその目的語の関係から形成された動詞句の枠で説明するのではなく、「自己」という語幹と「管理」という語幹からできた「自己管理」に「する」が接辞としてつけられた一つの語彙項目として考え、「自己」のもつ色々な解釈はその辞書的記述の中での複数の可能性が実際の使用された文脈で、語用論的な「優先的解釈」の条件みたいなもので選択されると考える方が採集した用例を整合的に説明できる。<sup>ix</sup>「自己負担する」の場合で、仮に「自分の(金額分)を」という意味は「負担する」の目的語の「自己」が metonymy を介して派生したと考え、「自ら」の意味は文脈から語用論的な要請から汲み取られるとして「自己」が「負担する」の目的語の役割を果たす故に動詞句のもつ統語的な単位を元にして説明を組み立てる可能性も残されてはいる。しかし、「自己」がもつ様々な意味的な機能は動詞句の目的語という文法的な機能を超えた「自己」という語幹としての語彙項目自身が主語にくる対象と直接的に相関して種々の意味機能を果たし得ることを示している。この観点からみれば、「自己」という単位は対して目的語であるという統語的な照応や性・数の一致を超えて、主語にくる対象と、直接的に関係づけられて解釈され得る意味的な機能をもつといえる。だから、四字動詞で「自己」を含む場合、動詞の機能を受け持つ部分から、この「自己」がもつ意味的な独立性は相対的に高いともいえる。

次に、「自己」という語幹は単にそれを含む四字動詞の中で意味的な独立性の高さを示す例を二例検討する。

428 自己認識 わたしたちが自分自身を自己認識するために... 心と脳の科学

採集例428では「自己認識する」の「自己」は「自身」を意味している。「自己」はその本来の意味「自身」を持つので「認識する」の目的語として解釈できるし、また主語にくる「わたしたち」と照応する点で意味的に照応の機能も果たしている。同時に、「自分自身」を目的語としてとっている。目的語をとる場合、「自己認識する」の場合の「自己」に意味的な照応の性質を与えない、内部構造が不透明な一個の語彙項目とするか、あるいは「自分自身」を重複的に使われた目的語とするかの解釈の可能性がある。いずれの場合でも、「自己」の語幹の部分が意味的にその存在の強さを示すことに原因がある。

499 自己批判 非人間性・反文化性を深く恥じて自己批判し... 比較文化キーワード

採集例499では、「自己批判する」の構成単位である「自己」は、①主語と照応し、②「自分のこと」という意味内容をもち、③「自発的に」というコンテキストからの意味内容がとれる。更に、この四字動詞は目的語として「非人間性・反文化性」をとっている。「自己」を動詞「批判する」の argument として考えると、その意味が「批判する」対象でありさえすればよいこと

になり、「自己」のコンテキストへの依存性が薄くなる。逆にいえば、「自己」の四字動詞の枠でその動詞機能の構成単位に対して意味的な独立性が強いからこそ、文の中で他の構成単位(＝主語、目的語)との関係があるといえる。次の、非文法的な文は「自己」は主語との照応関係を必然とすることを明示している。<sup>x</sup>

\*例文1 彼は彼女を自己批判した。

次に、表示した一覧表の動詞全般についての特徴を分析する。基本的には、他動詞にその目的語と解釈できる「自己」が一緒になって四字動詞を形成する。その全体の意味は自動詞用法である。その理由として、「自己」が主語と照応関係にあり、主語自身の動き・状態を表すからである。しかし、動詞が表す意味内容により新たに目的語をとり他動詞用法が可能にもなる。次の採集例が示すように、対応する受身文があることはこの系の四字動詞での拡張する可能性をしめしている。

7933 自己規制 いわば、訓練され自己規制された想像力と創造性という、...

ホノルルからの手紙

また、別の次元での意味用法の拡張として、この四字動詞が全体で比喩的用法を発達される採集例がある。

582 自己修復 生命体は自己補給し、自己修復する体系であり、...

言語を生み出す本能(下)

583 自己補給 生命体は自己補給し、自己修復する体系であり、...

言語を生み出す本能(下)

2177 自己主張 独自の文化が自己主張しはじめる。

比較文化キーワード3

採集例582、583では「自己主張する」、「自己修復する」は「自己」の語幹単位がもつ主語との照応関係が薄くなり寧ろ「積極的に」「他の力を借りずに」などのいみで「主張する」の動作を詳しく規定するmanner adverbの意味的機能をもっているといえる。採集例2177でも「主張する」の動作を修飾する「自ずから」という意味機能をもつと解釈できる。「自己」を除く動詞の部分は、単独では目的語を必要とする他動詞で意味的には判断・思考を表す内容が殆どであった。採集例8461の「自己破壊する」で、動詞の「破壊する」は「壁」などの具体的なものを対象にする。しかし、「自己」を含む四字動詞ではその意味内容が比喩的に使用されている。その意味では「自己」を含むとその意味内容から動詞部分の意味内容に対しても比喩的な解釈を強制するとも言える。

次に、動詞部分が単独では自動詞として使われる場合を検討する。採集したデータの一覧を示す。

244 自己分裂 自己分裂したこのヨーロッパの悲しみを...



「自己」で始まる四字動詞の分析

- アメリカ人と日本人 宮城音弥篇 山手選書
- 494 自己言及 ノエシ的自身がそのノエシ的自己に自己言及することである。  
日本文化は異質か 浜口恵俊 NHK出版
- 623 自己繁殖 抽象化はいわば「自己繁殖」しはじめる。  
コンピューター言語進化論 椋田直子 アスキー出版局
- 663 自己言及 自然言語は言語そのものについて語る（つまり、自己言及する）ことができ。  
コンピューター言語進化論 椋田直子 アスキー出版局
- 811 自己繁殖 抽象化はいわば「自己繁殖」しはじめる。  
コンピューター言語進化論 椋田直子 アスキー出版局
- 1799 自己憐憫 そして自己憐憫していると...  
続アメリカインディアン of 教え 加藤諦三 ニッポン放送出版
- 1875 自己増殖 パーチャル・リアリティーが自己増殖してしまったことを示している。  
歪められる日本のイメージ 近藤誠一 サイマル出版会
- 2036 自己形成 ...神経回路網が自己形成されてゆくと考えることができる  
人工知能と人間 長尾真 岩波書店
- 2091 自己実現 自己実現する機会がどんどん減ってきている。  
何がアメリカを衰退させたか。 ジョン・シルバー イーストプレス
- 2116 自己完成 ...人間として自己完成できるのだと信じる ユダヤ人 サイマル出版会
- 2264 自己矛盾 自己矛盾していることに気づく。  
日本文化は異質か 浜口恵俊 NHK出版
- 3624 自己満足 自己満足し、  
覇者の驕り 高橋伯夫訳 NHK出版
- 3839 自己崩壊 自己崩壊しかねない現状維持への崇敬の念  
米国報道にみる日本 近藤誠一 サイマル出版会
- 7897 自己集合 環境が設定されれば正確に自己集合し、...  
バイオサイエンスへの招待 石川統 岩波書店
- 8039 自己完結 ある意味では「ナウシカ」は自己完結した作品世界であり、...  
マンガニッポン論 フレデリック・ショット マール社
- 9216 自己発生 各人のスキーマに合わせて情報を自己発生させることになった。  
緊急時の情報処理 三浦俊彦 NHK出版
- 9239 自己消滅 そしていずれにしても、疑問0が自己消滅する。  
論理学入門 三浦俊彦 NHK出版
- 9241 自己消尽 主観的現場に引き渡すことで自己消尽させてしまう語用論的背理法の...

最初に、このグループの特徴を概観する。単独では目的語をとりにくい動詞をもつことに加えて、四字動詞の中で「自己」が持つ意味的機能として主語にくる対象を参照するという働きよりも「自分自身で」「自発的に」の意味で動詞の部分にadjunct的にかかる働きをすると解釈できる。採集例2036の場合でも「形成する」は目的語を必要とする他動詞ではあるが、受身形の「自己形成される」が単独の語彙項目として存在すると考えられる。何故なら、能動形の「自己形成する」は採集例にもなかったが、可能な表現を設定しにくいと思われるので。採集例1799で「憐憫する」は他動詞用法が可能な意味内容をもつが、「自己」を目的語にとり「自己を憐憫する」という使用例は実際に想定しにくい。以上の具体例と通した検討から主語との照応関係よりも動詞部分の意味内容を補完するといった副詞的な意味機能を「自己」はもっていることがわかる。

二つのグループを比較検討する。「自己」を除いた動詞の部分他動詞の機能を持つ場合、「自己」の語幹単位は目的語として主語と照応する統語的機能は勿論のこと、metonymy的に「自分のこと」にあたる意味機能まで意味範囲を拡大している。更に、語用論的にはコンテクスト次第で「自発的に」といった内容まで意味の読み込みが可能である。この言語事実を説明するためには「自己」を含む四字動詞では、「自己」という構成単位と動詞からなる動詞句の統語単位を基底にして説明の根拠を設定するよりも、既述した各種の意味機能を四字動詞がもつ辞書項目の中での情報として記載して、その適用条件を述べる方が言語事実と適合する。更に、「自己満足する」のような四字動詞のグループでは「自己」が果たす意味的機能は専ら動詞の意味内容を修飾して、必ずしも他動詞用法の場合で目的語の役割をもっていない。

つまり、統語的な動詞句の枠を出発点としたアプローチの仕方では「自己」を含む四字動詞の様々な意味的機能を説明できない。逆の見方をすれば、「自己」の構成単位は語幹という認定以上に独立した語彙項目の機能をもち、偶々四字動詞内に繰り込まれてはいるが、本来は、単独で関係する文法的機能をもつ単位（＝主語の構成単位）に解釈を付与しているという見方が可能である。<sup>xi</sup>

要約をする。「自己」を含む四字動詞の表現で、「自己」がもつ意味的機能を分析した。この「自己」という構成単位は動詞の目的語の機能をもつので、動詞句という統語的単位に着目した分析を出発点にするアプローチは説明できる範囲が少ないことを示した。何故なら、「自己」が文の中で他の構成単位に付与する意味的機能は「自己」を基準にして語彙項目の情報として記述する方が言語事実とうまく適合することを実証した。<sup>xii</sup>

- 
- i 「再帰代名詞」は「同一指示性」の文法的機能をもつ。
- ii 複合名詞の場合は前半要素にアクセントがくることが多いが、selfを含む場合、常に後半要素にアクセントがくる。
- iii 「自主運営する」等の「自主」は「照応性」をもたないし、「自主的に運営する」のように副詞を起源とする四字動詞故に、「self」の機能と同等でないので考察の対象にしない。
- iv 「自己」を「照応性」の機能に限定された代名詞とみると前半要素をargumentとみて動詞句の構成単位の構成パターンに従がっているという考え方の根拠は弱くなる。
- v 「整理整頓する」のように対になった漢語を語幹とする四字からなる動詞表現をいう。
- vi 私家版「四字動詞用例集」
- vii 四字動詞のデータを詳しくする理由で、延べ用法の基準を採用した。
- viii 自動詞は目的語を取らない故に、主語との照応性は生じない。従がって、主語との照応性が生じるのはあくまでも四字動詞の内部構造から生じるのであるから、「自己」を目的語とする動詞句のアプローチが有効ともいえる。
- ix Jackendoffの「優先条件」なども語用論的な基準にも解釈かのである。  
Jackendoff (1990) p.223参照。
- x 逆に言えば、「自己」は四字動詞の構成単位でありながら機能的には文の他の構成単位(=主語等)に対して独立的に関係づけられる構成単位といえる。その基準があるだけ一般の名詞に近いという解釈が可能である。
- xi 日本語の名詞が連結してより大きな複合単位を形成するとき統語的な制限が英語に比べて少ないことを示している。つまり、どこまで複合化しても階層性のすくない名詞構造といえる。
- xii 日本語の名詞構造が階層性等の統語的条件に制限されずに柔軟な構造をもつともいえる。

#### 参考文献

- Jackendoff, Ray. 1987 *Semantics and the Computational Mind*. MIT Press.
- 影山太郎 1992 『語形成』 むぎ書房
- 影山太郎 1996 『動詞意味論』 むぎ書房
- Koening, Jean-Pierre 1999 *Lexical Relations*. Stanford University Press

引用文献

- ナンシー・アンドリアセン 『故障した脳』 サイマル出版会  
池田謙一篇 『緊急時の情報処理』 東大出版会  
池田理知子 『異文化コミュニケーション』 有斐閣  
石丸正 『非言語コミュニケーション』 新潮社  
芋坂直行 『心と脳の科学』 岩波書店  
芋坂直行 『意識とは何か』 岩波書店  
ダニエル・沖本 『日系二世に生まれて』 サイマル出版会  
加賀野井秀一 『20世紀言語学入門』 講談社現代新書  
加藤諦三 『続アメリカンインディアンの教え』 ニッポン放送出版  
工藤美代子 『哀しい目つきの漂浪者』 集英社  
グレゴリー・クラーク 『日本人』 サイマル出版会  
V.H. グレグ 『ヒューマンメモリ』 サイエンス社  
近藤誠一 『歪められる日本人のイメージ』 サイマル出版会  
近藤誠一 『米国報道にみる日本』 サイマル出版会  
坂井道弘 『ハリウッドの日本人』 文芸春秋  
ジミー・佐古田 『日米合同捜査』 講談社  
ロナルド・ジェイファー 『アメリカの日本空襲にモラルはあったか』 草思社  
フレデリック・ショット 『マンガニッポン論』 マール社  
ジョン・シルバー 『何かアメリカを衰退させたか』 イースト・プレス  
高橋伯夫訳 『覇者の驕り』 NHK出版  
竹内実篇 『比較文化キーワード』 サイマル出版会  
ドウス・昌代 『日本の陰謀』 文芸春秋  
長尾真 『人工知能と人間』 岩波新書  
長田庄一 『日本は世界を知っているか』 サイマル出版会  
メイ・T・ナカノ 『日系アメリカ女性』 サイマル出版会  
中村保男 『翻訳の技術』 中公新書  
西垣通 『インターネットの五年後』 カッパブックス  
浜口恵俊 『日本文化は異質か』 NHK出版  
ハロラン・茱美子 『ホノルルからの手紙』 中公新書  
スチーブン・ピンカー 『言語を生み出す本能』(上)(下) NHKブックス  
本田靖春 『ロサンゼルス日本人』 学研

「自己」で始まる四字動詞の分析

棕田直子訳 『コンピューター言語進化論』 アスキー出版局

村上由美子 『アジア系アメリカ人』 中公新書

山本七平 『「空気」の研究』 文芸春秋

菅野盾樹 『メタファーの記号論』 頸草書房

山本明 『日本のマスコミュニケーション』 NHK

『ユダヤ人』 サイマル出版会

大貫 『ポスのなかのポス』 扶桑社

日本経済新聞

毎日新聞